『東京ツアー～
レポート談義博覧会記念日２０１１』

２０１１年２月１６日：

朝９時、ギターやリュックを抱え、仙台駅へ。仙台駅で買ったおにぎりを食べていたら、先日、２万５０００円もかけて入れた白い歯あたりでおもいっきり梅干の種を噛んでしまい、不安になりながら上野に到着。食べ物なんてもう食べたくない（なんかぐらぐらしている気がする！）。

池袋のホテルのチェックインまで四時間もあるのに、どこに行こうかまったく思い浮かばない。両手に荷物を持っているので遠出はしたくはないし、死んでしまおうなんて悩んだりしたわ、バラやコスモス達も、枯れておしまいと髪を短くしたり 強く小指をかんだり自分ばかり責めつつ、とりあえず池袋へ。

改札を出て、駅の近くにある公園で３０分くらいぼんやりと座っていたら、目の前にあったビックカメラに入社することが出来た（一発採用）。そこのパソコンコーナーの店員さんと少しだけ話をする事が出来た（「何か目ぼしいものは見つかりましたか？」「両親が使うパソコンが壊れました」系）。

終始、肩が非常に痛い！もっと日本を元気にしたい！そんな思いで、池袋西口をうろうろしていたら、「宮城ふるさとプラザ」という、宮城県の様々な新鮮な野菜や名産物を扱うお店に出くわした。事前に、仙台土産を買う事が出来なかったが、次からはこちらでお土産が買えれば便利かもしれない。

参照・プラザ案内―宮城ふるさとプラザ http://cocomiyagi.jp/plaza/

肩にびりびりした痛みを感じながら、ビジネスホテル西池へチェックインした。トイレと風呂のユニットバスがとてもキレイだったが、部屋は狭く、壁が薄くて、隣の部屋の電気のスイッチの音が聞こえるだけではなく、隣の人の心臓の音まではっきりと認識することが出来たくらいだったから、私はミジンコのように小さく恐縮な気分でおしとやかに紙袋を畳むしか他なかった。

それから、夕方になり会場の池袋ベムスターへと向かった。事前にインターネットで一番近いルートを探していて、その通りに歩いていたら、途中からどんどん道が狭くなり、お色気な雰囲気がむんむんと感じられてきた。街角にひしめき合

う女のパイオツ（ＰＩＯＴ）や、男達の欲望にまみれた汗がそこここに蒸発しているような都会な街角で、「ちょっと寄ってかない」と一度くらい声をかけられたと思う。私がそのような欲望サービスをお気楽に利用するような人間だと思われたのだろうか。

それから会場に着き、出演者の加藤さん、黒澤さん、田中さん、上野さん、高橋さん、など多数の共演の方々が楽器を持ち寄り、店内にご来光。皆さんとても御優しい方々ばかりで安心した。色々とセッティングをしていると、インターネットの仮想空間でお世話になっている戸田さんと南里さんもいらっしゃった。そこで南里さんから、抹茶のマフィンやクッキーを頂いたが、それが恐ろしく絶品で、甘さも控えめで素晴らしく美味しかった。こんなクッキーは食べた事がない。もし「甘さちょうど良さ選手権」というものがあったなら、必ず一位に輝くだろう。

いざゆかん演奏！皆様のそれぞれバンドの演奏（奏者がいなくなったり現れたり！）、はたまた弾き語り演奏でいらっしゃったり、堪能させて頂いた。私はというと、お客さんのほうを向いて演奏をすると緊張してしまう気がする。無事に演奏イベント一日目「おいでませｗａｇａさんライブ」が終了した。私の演奏としては、もっとああしたかった、等、考えたりした。

それから、打ち上げパラダイスの為、中華系のお店へ。みなさんとわきあいあいとおしゃべり、飲食、飲食店経営、などをして楽しいひと時を過ごした。

それから、夜中１２時半あたりにホテルにたどり着き、テレビをつけたらマツコデラックスと有田哲平が出ていた。東京で見る芸能人と仙台で見る芸能人ってなんか違っている。仙台にいると「蚊帳の外の人々」「死ぬまで会うことはないだろう異次元の人間たち」といった認識をしているが、東京で彼らを見ると、画面の向こうにいるのは同じなのに、より有名パワーが出ているような気がした。実際にばったりと会う可能性がある現実の人、と感じるからかもしれない。

２０１１年２月１７日

あまり寝られなかったが、朝は８時くらいに目が覚め子。麻里子！そんな訳で、スカイツリーを一目見てみたいと思い、東京メトロに乗り込んだ。押上という駅でおりるやいなや！びっくり仰天、ギョウチュウ検査。

レイアウトが難しいページとなっておりますが、ご容赦くだされば
そんなこんなで、あたりをわくわくしながら歩いていたら、警備
じちゃん（室伏広治のおじちゃんという意味ではありません、あ
母さんに連れられて歩いている小さい男の子に、「こんにちは
して、非常に気さくな趣を感じた。私の住む地域では工事の
通行人にあいさつをし、コミュニケーションを取る姿
などそんなに見かけないので、やはりより大勢の人間
が人間による人間がいらっしゃって成り立つコミュニ
ティにおいては、コミュニケーションの積極性が
とても大切なものになっているのかもしれませんね、
と思った。

それにしても、色々な人々がスカイツリーを見に来
ていた。近所からバイクで見に来たおじちゃんとか、
観光客もちらほらといるようだったが、なぜか近所
から見に来ていた人が多そうな気がした。

それにしても、あまりにも近すぎて、大きさが分か
らない気持ちもあり、遠い所から見ることにしよう
ではありませんか。ＧＯ ＴＯ ＴＨＥ ＮＥＸＴ
ＰＬＡＮＥＴ！

浅草駅の方面へ歩いて、生きてみた。やはり遠くから見るとかなり大きさが分かるのだな、と思った。でも、そろそろスカイツリーは見納めということで、川岸の渡り廊下におりて、写真を撮ったりした。

その後、近くにある浅草駅付近を通り過ぎていたら、人間滑車の男どもが客の気を引こうと必死だった。「そこの方〜、どうかお話だけでも聞いていきませんか！」「ちょっとぉ！すいません！すいませ〜〜ん！」等と瞳孔が開いたような顔で頑張っていらっしゃった。

それから、昨晩にお茶の約束をしていた、戸田シュンスケさんと南里マサコさんと待ち合わせしていた１４時に間に合うように、地下鉄に乗った。しかし、まったく間に合わなかった。申し訳ないと思っております。

いよいよ池袋に到着。なんと、仮想世界ではおなじみなのに、現実で会うなんて不思議な感じだ。その後、喫茶店に入って色々とお茶をしたり、お茶を濁したりお話をさせて頂いた。仮想の世界では文字で相手との意思の疎通を図っているのだが、音を使って疎通すると、周りの騒音もあって、聞き取れないこともあって、聞き返すこともしばしばあった。

それから、私がミキサーを見てみたいと言ったので、石橋楽器に行く事にした。店内をうろうろしたり、皆でキーボードでちろちろといった音色を出したり、店員の乳房を出してみたり。パンティをつかんだり、ゆらゆらと揺らしたり。それから、私がギターを手に取ったら店員さんに笑顔でやんわりと注意されたりした。

申し訳ございませんでした。それからタワーレコードでCDを物色したり試聴したり、なかなか仮想の世界では出来ない行動を共にさせて頂いた。帰りのエスカレーターから見える夕日はてらてらしていた。

それから、3人で会場の池袋ベムスターへ。昨日とは違って今日は、演奏者はランダムに選ばれ、2人だったり3人だったりしていて、しかも演奏時間も10分というルールがあった。内容の方もとても良かったと思わせて頂いた。

それと、仙台出身の呉竹さん（東京在住）もお客さんでいらっしゃって、美味しいチョコレートを頂いた。そして、長らくTwitterでやりとりをさせて頂いていた、多摩で音楽を作ってらっしゃるAKIRA YODAさんもいらっしゃって下さった。とても気さくで、ナイスなお方だった。あまりにもお話しすぎて、次の演奏がもう始まってしまい、客席に戻れずにトイレ付近で不良がたむように地面あたりにもたれかかってライブを鑑賞させて頂いた。

「いってらっしゃいませWagaさんライブ」、終焉には、蛍の光と蒲田行進曲をテルミンとギターで演奏させて頂いた。皆で楽しく宴が終了したことに、私達、人類は安堵の気持ちでいっぱいになった。そして、持ってきたCDを皆さま買って下さって、とてもうれしく思いつつも、こんなに買ってくださることは本当にないので、とても恐縮した。

それから、共演者たちの皆様で打ち上げの為、昨晩と同じ中華系のお店に行った。今日こそは蚕（かいこ）の炒めたものを食べよう、多くの者はそう意気込んでいた。実際に食べてみたら意外にも「かにみそ」のようであっけなく食べられるものだったので、当初、店員さんが”何をそんなにおどおどしているのかしらね、美味しいわよ”、というような表情を見せていた理由が分かった。

そんな訳で、ホテルに着くやいなや、終わった！といった気分になり、満足し、とても充実した表情を見せたが、鏡にうつった自分の顔がなんだかよれよれで、老いのわびしさを感じた。もしくは、悪い東京の空気が毒素となり、体に回って、一段と老いを進めてしまったのかもしれない。これが後の「東京老い伝説」の始まりであった事は、まだ誰も知る由もなかった。

白黒反転のせいで読みにくいかもしれません。この度はまことにすみませんでした。

さっきホテルのフロントで、支配人のおじさまが「今日もお帰りが遅くて寝る時間が少ないですね」というねぎらいの言葉を頂いた。ありがたいことです、と思ったのだが、「もしかして部屋に隠しカメラが設置されていて、寝つけなかった様子を見られていたのだろうか」等という妄想が頭をよぎった。なんていやらしいお方！

２０１１年２月１８日

目が覚めると、そこは銀河の中の小さなひとつの星の中にいた・・・そう、それが地球だった・・・

そんな訳で、９時５０分あたりにチェック・アウティング。今日は色々な時代を巡り歩きたいので、東京メトロかＪＲの１日乗車券を買うか迷ってしまって、池袋の販売機の前で３０分くらい、独り言を言いながらうろうろしていた。

結局、メトロの１日乗車券を購入して、笑っていいとものの聖地「新宿アルタ」を見たかったので、新宿３丁目駅へと向かった。これがか！といった興奮が少しあった。入り口には色々と人間どもが並んでいた。そして、新宿アルタの大画面テレビに、ＮＨＫのＣＭが流れていてびっくりした。そうか、新宿アルタというのは別にフジテレビだけのものではないのですね、と思った。

それから、素敵な風情のある坂を見たいと思っていたので、神楽坂へ。しかし、たどり着いたところは、まったくもってどこに素敵な坂があるのか分からなかった(マクドナルドしかなかった)。結局、１分くらい、あたりをうろうろしてから、駅に戻った。事前に調べておくべきであろう。

それから、次はどこへ行こう。いつぞやテレビの下町の特集の番組で紹介されていた「根津」という場所に行ってみたかったので、そこを目指すことにした。しかし、見事に逆方向の列車に乗ってしまったり、急行の列車に乗ってしまったり。結局３回も間違えて、しまいには千葉県

方面に行きそうになった。急行や特急で停まる駅が分からない。わかりづらいんだよ。荷物も重くて肩に激痛が走るし、現世の馬鹿野郎！

そんなこんなで、今から、根津に行ってしまうと新幹線に乗り遅れてしまいそうだったので、とりあえず途中の駅で降りて、私のＣＤを置かせてもらっている秋葉原のイアーズさんに寄ってみようと思った。歩いている途中で、いかにも、キャリアウーマン風の女性が「ランチやってます」と書かれた看板の居酒屋に入って行ったのを見かけた。ちょうどお腹が空いていたので、あとでここに来てみようと思った。

それから、イアーズさんで私のＣＤを確認してみた。私のＣＤは棚の方には入っておらず、空いているスペースに置かれている感じだった。それもまた良いだろうと思った。しかし、特に店員さんには話しかけず、店を跡にした。

それから、先ほどのランチのお店へ。さっきのＯＬはもういないようで、カウンターの向こうを見ると、５０代くらいの男性が１人でお店をきりもりしているようだった。そして私が端っこにギターケースを置かせてもらっていると「俺、楽器やれる人、尊敬するんだよな」と言っていた。それから、一番端っこの席に座ってみたが、そこは洗剤のにおいがプンプンしていた。とりあえず、オススメと書いてあった、鳥の唐揚げ定食を頼んだ。すると、店主はおもむろにキャベツの千切りを始めた。と思ったら、キャベツの切れ端をポイッと口の中にほおりこんだ。家っぽい！それから、キャベツの味噌汁が出てきたのだが、だしを取る時に使っていたであろう煮干が入っていた。それと、非常にぬるかった。私はさして、熱い・ぬるいは気にならないのだが、温度は３０度くらいだったので、とてもぬるいなと思った。

そんな風に食べながら、奥の壁に目をやると、上半身裸の女性が写ったポスターが貼られていた（生ボインが２つ程度、並んでいた）。ということは、性モノに対して、堂々としてらっしゃる店主、ということになる寸法だ。そして、私のあとに入ってきた常連の男客が、新聞を真面目に読んでいるかと思いきや、スポーツ新聞の女裸体コーナーをじっくりと眺めているではありませんか。このような風紀の乱れと、味噌汁のぬるさで、この店に対するイメージはどんどんと下がり、やばい所にきちゃった感がアゲアゲになった。結局そのあと、逃げ出すように急いで食べきり、上野駅へと向かった。

お写真 from http://r.tabelog.com/tokyo/A1311/A131101/13016741/dtlrvwlst/868578/

駅の改札を駆け抜けて、私は一目散に新幹線のホームへと向かっていた。そうすると、７０代くらいのおばあさまが「あなだ、どごにいぐんですか」と聞いてきたので、仙台です、と答えたら、「わだし、古川に行きたいんだげど、新幹線初めてだから、教えてもらってもいい？」という、展開来ちゃった。そんな訳で、親切心まるだし・むき出しで、古川のおばあちゃんを４番線ホームまで送って差し上げた。なるべく分かりやすい言葉でご説明させて頂いた。

いざ、私もホームに乗り込んで、仙台へＷＥＮＴ。関東地方までは汗ばむくらい暑かったのだが、白石蔵王あたりで冷え冷えになってきたので、ジャンパーを羽織った。外の夕焼けが、途中の町々で当たり前な感じで照らされていて、懐かしい感じがした。

終わり

Ｋ．Ｗｏｒｒｉｅｒ